

登録コード	SGQ05900	開講年度	2026					
授業題目	数学科指導法演習				担当教員	志津 千代子		
英文授業名	Practical Training for Teaching Mathematics I				副担当	小山 茂喜		
単位数	1	講義期間	後期(後半)	曜日・時限	水曜・5時限		対象学年	3年
講義室	理学部第7講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー非該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	グループ（10）ごとに立案した指導計画を基に模擬授業を行い、授業分析や教材分析を行うことを通して、体験的に授業実践力を養う。							
(5)授業のキーワード	授業展開と授業分析							
(6)授業計画	第1回：補充的な学習や発展的な学習について 第2回：授業構想と教材開発(1) 第3回：授業構想と教材開発(2) 第4回：指導案作成(1) 第5回：指導案作成(2) 第6回：模擬授業と授業分析(1) 第7回：模擬授業と授業分析(2) 第8回：指導案の修正 及び「授業のふりかえり」の入力							
(7)成績評価の方法	模擬授業並びに授業分析のレポートを総合的に判断して評価する。							
(8)成績評価の基準	() 講義内容の理解 () 当日に課された課題レポートの内容 () 模擬授業への取り組みやその内容 () 授業分析に関わるレポート () 発表(プレゼンテーション)の仕方 () 積極性等の授業への取り組み状況 のいずれにおいても達成目標で想定したレベル以上であれば「卓越している」、5項目までできていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「合格水準にある」。							
(9)事前事後学習の内容	毎回の授業の最後に、当日の授業内容の理解を問う課題や次回の授業内容につながる課題を出す。次回の授業の冒頭で課題用紙を回収するので、しっかりと内容を吟味したうえで提出すること。また、模擬授業を行うにあたっては、事前に学習指導案や教材を何回も吟味・検討したうえで授業にのぞむこと。さらに、授業分析に関わるレポートは、一つ一つの項目について詳細に分析をしたうえで作成し、次回の授業の冒頭に提出すること。							
(10)履修上の注意	中学校の数学免許を取得する学生は必修。							
(11)質問,相談への対応	授業以外の時間帯で工学部の教職相談室にて質問・相談を受け付ける。 授業終了後、時間的な余裕があれば、そのまま講義室でも質問や相談への対応は可能。							
【教科書】	「中学校学習指導要領(平成29年告示)」「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 数理編」(文部科学省)							
【参考書】	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 数学』国立教育政策研究所(令和2年),『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 数学』国立教育政策研究所(令和3年),「新しい教科書の使い方～よりよい授業づくりのために～中学校編」(公財)教科書研究センター(令和5年),「すぐに使える学習者用デジタル教科書活用事例集(中学校編)」(公財)教科書研究センター(令和6年),「算数・数学の教科書の世界的潮流に関する調査研究報告書」(公財)教科書研究センター(令和4年)							